

文教福祉画常任委員会研修報告

「特別支援学校の「設置基準策定」を国に求める陳情」を受け、7月6日に市内3校の視察研修を行いました。

南那須特別支援学校は知的障がい者を教育する小・中・高等部があります。児童生徒の増加に伴い、作業学習等で使用していた特別教室を普通クラスとして使用していました。

荒川小学校には、知的と情緒計4クラスの特別支援学級がありました。少子化の中このような児童生徒の増加は見逃せず、行政と学校が一体となり対策をしなければなりません。

新生南那須中学校では電子黒板を使った授業やALTと英語教諭の授業も見学できました。おおむね無事に出港したようです。

本市の教育行政に対する支援はまだ不足しているかもしれません。同世代の子どもを持つ親として、注視していかなければならないと感じた視察でした。

副委員長 滝口 貴史



南那須特別支援学校を視察